

第2期栗東市総合戦略にかかる数値目標および重要業績評価指標（KPI）達成状況

※ 令和3年9月末時点

【まち】地域の活力を生み出す人口確保・定着に向け魅力あるまちをつくる

指標	数値目標（KPI）
人口の社会増減	117人（年平均：H27-H30） → 現状数の維持（年平均：R2-R6）

【実績】

117人（年平均：H27-30） → **136人（年平均 H29-R2）**

（1）良好な住環境の整備推進

<重要業績評価指標（KPI）>

■20～40歳代の人口「現状人口の維持（29,900人）」

【実績】

29,900人 → 29,512人（R3.3） → **29,210人（R3.9）**

（2）地域資源を活用したシティセールスによるまちの魅力発信

<重要業績評価指標（KPI）>

■今の場所に住み続けたいと思う市民のうち、その理由として「まちに愛着がある」を選択する割合「4.4%（H30） → 12.4%（R5）」

【実績】

4.4%（H30） → **6.3%（R3）**

■まちの中で自分が愛着や誇りを感じているものを言える市民の割合「36.2%（H30） → 44.2%（R5）」

【実績】

36.2%（H30） → **約40.6%（R3）** ※集計中・暫定値

■観光消費額「803百万円（H29） → 1,700百万円（R5）」

【実績】

803百万円（H29） → **※次回はR5年度に調査実施予定**

（3）誰もがいきいきと暮らせるまちづくりの推進

<重要業績評価指標（KPI）>

- 健康寿命（平均自立期間）の延伸 「男性：81.2歳（R1）→81.3歳（R5）
女性：84.0歳（R1）→84.1歳（R5）」

【実績】

男性：81.2歳（R1） → 80.7歳（R2）
女性：84.0歳（R1） → 84.6歳（R2）

- 住み慣れた地域で、近隣との支えあいのもと、安心して暮らせるまちづくりが推進されていると思う市民の割合「54.4%（H30） → 62.0%（R5）」

【実績】

54.4%（H30） → 51.8%（R3）

【ひと】若い世代の出産・子育ての希望をかなえる

指標	数値目標（KPI）
合計特殊出生率	現状値の維持（1.98）

【実績】

1.98（H29） → 2.02（R1）

（1）妊娠・出産・子育てをつなぐ安心の支援

<重要業績評価指標（KPI）>

- 待機児童数「0人／年」

【実績】

60人（R1.4） → 55人（R2.4） → 13人（R3.4）

（2）確かな学力と生きる力を育む教育環境の整備

- 授業の内容がよくわかる児童（6年生）の割合「79.1%（R1）→83.0%（R5）」

【実績】

79.1%（R1） → ※R2年度は全国学力・学習調査が未実施

（3）すべての子どもの育ちの支援

- 不登校生徒在籍率（中学生）「3.93%（H30）→3.63%（R5）」

【実績】

3.93%（H30） → 3.46%（R2）

【しごと】立地条件を活かし、安心して働ける産業雇用体制をつくる

指標	数値目標（KPI）
事業所立地数	現状数の維持（2,838件）

【実績】

2,838件（H28） → **3,204件（R1）**（出典：経済センサス）

（1）就労の支援とまちに活力をもたらす産業の創出

<重要業績評価指標（KPI）>

■就業者数「現状数の維持（31,844人）」

【実績】

31,844人（H28） → ※R1調査の数値が未公表。（出典：経済センサス）

（2）中小企業・小規模事業者の経営基盤の強化と消費者ニーズの創出

<重要業績評価指標（KPI）>

■市内事業所の総売上額「9,597億円（H28） → 9,597億円以上（R6）」

【実績】

9,597億円（H28） → ※次回はR3年度調査実施予定（出典：経済センサス）

■消費生活における市内での購買割合「消費生活における市内での購買割合の維持（35.7%）」

【実績】

35.7%（R1） → ※次回はR4年度に調査実施予定

（3）農林業の振興支援による活性化の推進

<重要業績評価指標（KPI）>

■農地集積率（累計）「57.1%（H30） → 70.0%（R5）」

【実績】

57.1%（H30） → **65.0%（R2暫定値）**

※各考察については、第2期総合戦略策定時（令和2年3月）以降で、数値目標（KPI）及び重要業績評価指標（KPI）の直近の数値が判明している項目について記載しています。

考察【まち】

- ・【まち】の数値目標である「人口の社会増減 117人（現状数の維持）」については、増加傾向が見られます。
- ・市全体の人口としては増加傾向であるものの、施策のKPIでは「20～40歳代の人口 現状人口の維持（29,900人）」について、令和2年3月に第2期総合戦略を策定してから減少傾向が続いており、『良好な住環境の整備促進』に関係する取り組みに力を入れていく必要があります。
- ・令和3年度に実施した市民アンケートの結果から、KPI「今の場所に住み続けたいと思う市民のうち、その理由として「まちに愛着がある」を選択する割合」と「まちの中で自分が愛着や誇りを感じているものを言える市民の割合」は平成30年度から比べて上昇しています。『地域資源を活用したシティセールスによるまちの魅力発信』に関係する取り組みの結果が反映されてきていると考えられます。
- ・KPI「健康寿命の延伸」では、男性の健康寿命は下がり、女性の健康寿命は上がっています。また、KPI「住み慣れた地域で、近隣との支えあいのもと、安心して暮らせるまちづくりが推進されていると思う市民の割合」は低下していますが、コロナ禍の影響を受けている取り組みが多いことが市民の評価に影響していると考えられます。

考察【ひと】

- ・【ひと】の数値目標である「合計特殊出生率 現状値の維持（1.98）」（出典：滋賀県南部健康社事務所「事業年俸」）については、直近の数値の公表を待つところですが、平成29年度：1.98から令和元年度：2.02と、増加傾向となっています。
- ・施策のKPIでは「待機児童数 0人／年」に対し、令和元年4月：60人から令和3年4月：13人と、待機児童が減少しており、『妊娠・出産・子育てをつなぐ安心の支援』の取り組みが進んでいると考えられます。
- ・KPI「不登校生徒在籍率（中学生）」について、平成30年度：3.93%から令和2年度：3.46%と減少が見られ、『すべての子どもの育ちの支援』についての取り組みの効果が見られます。

考察【しごと】

- ・【しごと】の数値目標である「事業所立地数 現状数の維持（2,838件）」（出典：経済センサス）については、平成28年度：2,838件から令和元年度：3,204件と、増加傾向となっています。
- ・施策『就労の支援とまちに活力をもたらす産業の創出』及び『中小企業・小規模事業者の経営基盤の強化と消費者ニーズの創出』の関係KPIについては、直近数値が未公表です。各取り組みは、コロナ禍の影響を受けているものもありますが、代替策を講じるなど、工夫して取り組んでいます。

・KPI「農地集積率（累計）」については、平成30年度：57.1%から令和2年度（暫定値）：65.0%と増加しており、目標達成に向けて推移しています。

二 次 評 価（令和3年12月24日 栗東市地方創生懇談会）

・【まち】では、市全体の人口としては増加傾向であるものの、20～40歳代の人口は減少傾向が続いている。道路網や住環境の整備など地域の利便性や快適性の向上を図り、住民にとって住みよいまちとなるよう、定住促進に向けた取り組みに注力されたい。

・【ひと】では、合計特殊出生率は増加傾向で、待機児童数についても減少しており、取り組みの順調な推移が見られる。コロナ禍の長期化で、子どもへの影響（いじめやヤングケアラー、生活困窮等）が懸念されるため、子どもの健やかな成長を支えるための取り組みを進められたい。

・【しごと】では、最新のKPIの数値の公表を待つ項目が多いが、コロナ禍による影響を注視しながら、商工業や農林業の振興支援を進められたい。特に農業分野では「農地の集積率」を一つの指標としているが、担い手の高齢化による農地自体の減少についても視野に入れて農業振興に取り組まれたい。

・全体を通して、「いつまでも 住み続けたくなる安心な元気都市 栗東」の実現に向け、魅力ある住みよいまちを目指して事業の進展を考えていっていただきたい。